



『サーファー』

波の匂いとさわやかな潮
風が俺を呼んでいる。まぶ
しい日差しがボードと俺を
輝かせている。
俺は波を見ながらそっと
煙草に火をつける。
みんなの視線を浴びなが
ら、今日も濡れずに帰って
いく。

～解説～

このサーファーは、陸サーファーだったのでしょうか。海には入らず、ナンパ目的で毎日ここにきているのでは・・・

違う見方をしたら、慎重なサーファーかもしれません。**波と風を読み自分の技量にあった波を待っている**のかもしれません。

難破（なんぱ）はしないでね。



海の「もしも」は118番